

世界文化遺産

明治日本の産業革命遺産を次世代へ

2018年の明治維新150年を機に、NHK大河ドラマ「西郷どん」の放映が決定！

その西郷を登用して活躍の機会を与えた第11代薩摩藩主島津斉彬。彼が興した集成館事業は今日の産業国家日本の礎となり、全国に富国強兵を広げる原点となりました。斉彬をはじめ、当時の人々の高い志と先見の明には驚くばかりです。それらが世界文化遺産に登録されて1年8ヶ月。県では、この集成館事業を多くの方々に広く理解していただくため、さまざまな普及活動を行っています。

その世界的な価値に迫り、次世代へ継承していくための取り組みをご紹介します。



旧鹿児島紡績所技師館[異人館]



旧集成館 [反射炉跡]



寺山炭窯跡



関吉の疎水溝



旧集成館

日本の近代工場発祥の地

19世紀、欧米列強が次々とアジアに進出する中、アヘン戦争で清(中国)がイギリスに敗れると、幕府や諸藩に植民地化の危機感が広まってきました。こうした中、1851年に薩摩藩主になった島津斉彬は、富国強兵、殖産興業による強く豊かな国づくりをめざし、集成館事業を開始。西洋から取り寄せた書物を参考に、在来の技術を駆使して、鉄製大砲の製造や洋式船の建造に挑戦し、試行錯誤の末、近代化を進めました。斉彬の亡き後、久光・忠義に引き継がれ、西洋から取り寄せた蒸気機関による洋式機械工場群が礎に造られ、最盛期には1,200人が働く、日本初の工業地帯となりました。鹿児島で行われた、この先駆的な取り組みは、その後の日本の急速な産業化の礎となったのです。

関吉の疎水溝

事業の動力を支えた水の供給地

工業の動力として蒸気機関が使用されていたヨーロッパに対し、薩摩藩では蒸気機関に替わる動力として、水車を利用されました。斉彬は1852年、当時関吉から磯の御殿に引かれていた水路を大幅に改修し、集成館へ動力として大量の水を送り込みました。水車から得た動力は製鉄炉に大量の風を送り込んだり、大砲の筒に穴を開けたりするなど、鉄製大砲製造を支えたのです。取水口では岩盤を加工し、巧みに川から水路に取水していました。水路はそこから約6キロメートル、平均勾配0.077度とほぼ水平な傾斜で、集成館背後の台地まで建設されており、薩摩藩の高い技術力がうかがえます。

寺山炭窯跡

事業の燃料・原料を支えた木炭の供給地

当時ヨーロッパでは、鉄を作る原料の一つとして石炭が使用されていましたが、石炭を産出しない薩摩藩では、それを補うために良質の木炭が必要でした。鉄を溶かして大砲の筒を作る反射炉で強力な火力を得るためです。寺山に残された炭窯は、集成館の工場群に大量の木炭を供給するために築かれ、その大きさは世界に類を見ないといわれています。

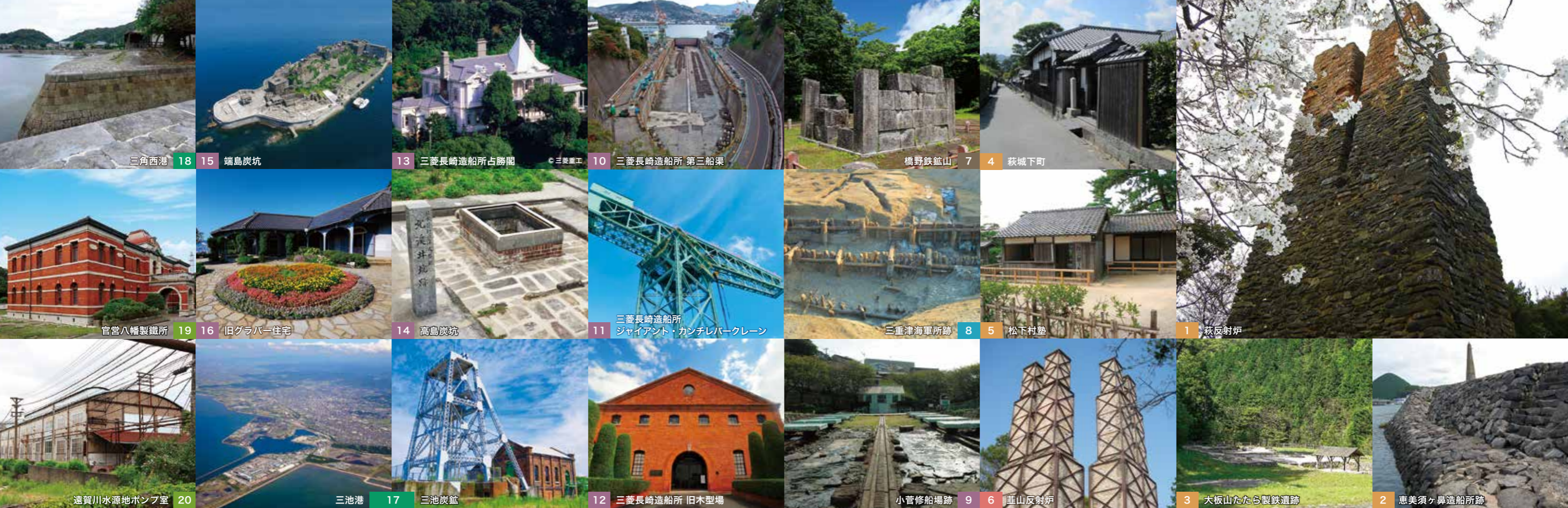
集成館とそれを支えた水車動力・燃料



日本近代化の礎を築いた名君  
しまづ なりあきら  
島津 斉彬  
第11代薩摩藩主。強く豊かな国づくりをめざして集成館事業を興し、製鉄・造船・ガラス工芸・近代薩摩焼の生産など、さまざまな取り組みを行った。  
尚古集成館蔵

旧集成館 [機械工場]  
(現・尚古集成館本館)





**16 旧グラバー住宅** (船・石炭)  
1863年に建設されたトーマス・グラバーの住居で、現存する最古の木造洋風建築。グラバーは、日本の造船・石炭といった主要産業の近代化に貢献した。

**三池**

**17 三池炭鉱・三池港** (石炭)  
高島炭坑に次ぎ、日本で2番目に近代化された炭坑。三池港は貿易港として、三池炭を上海や香港に輸出した。

**18 三角西港** (石炭)  
1887年に明治政府の殖産興業政策の下で建設された近代貿易港。明治三大築港のひとつで、初期の三池炭輸出の一端を担った。

**八幡**

**19 官営八幡製鉄所** (鉄)  
明治政府が建設した官営製鉄所。アジアで成功した初の本格的な銑鋼一貫製鉄所で、日本経済の礎を築いた。

**20 遠賀川水源ポンプ室** (鉄)  
生産倍増を目指す八幡製鉄所の第一期拡張計画に伴い、製鉄に必要な工業用水を確保するため、1910年に遠賀川東岸に建設された。

**10 三菱長崎造船所 第三船渠** (せんきょ)  
**11 三菱長崎造船所 ジャイアント・カンチレバークレーン**

**12 三菱長崎造船所 旧木型場** (せんきょ)  
明治後期、三菱合資会社時代に竣工した施設群。陸用・船用蒸気タービンの生産、大型船の設計、製造、組立てまで本工場で可能になり、近代造船の土台が確立した。船渠とクレーンは、約100年を経た今も、現役で稼働している。

**13 三菱長崎造船所 占勝閣** (せんしやうかく)  
長崎造船所長の邸宅として1904年に完成したが、所長宅としては使用されず、迎賓館として使用された。

**14 高島炭坑** (石炭)  
佐賀藩とグラバーの共同事業により、1869年に日本で初めて蒸気機関を導入した炭坑。

**15 端島炭坑** (石炭)  
三菱により開発され、1891年より出炭。採炭量の増加に伴い、採炭により出てくるポタ(不純物)で島の周囲を埋立て、島を拡張した日本初の本格的な海洋炭坑。「軍艦島」の名前で知られる。

**葦山**

**6 葦山反射炉** (鉄)  
アヘン戦争以降、海防への危機感から、鉄製大砲を铸造するため、江戸幕府直営の大砲铸造所として1857年に築造。反射炉本体は日本で唯一完全な形で現存。

**釜石**

**7 橋野鉄鉱山** (鉄)  
オランダ技術書を基に伝統的技術で洋式高炉を建設。1858年に鉄の連続生産に成功した、現存する日本最古の洋式高炉跡。

**佐賀**

**8 三重津海軍所跡** (せんきょ)  
長崎防衛の任にあった佐賀藩が海軍の人材育成を行った拠点。長崎海軍伝習所で学習した技術を導入し、洋式船の修繕、建造に試行錯誤で挑戦した、日本最古のドライドック(船渠)が地下遺構として残る。

**長崎**

**9 小菅修船場跡** (せんきょ)  
薩摩藩とグラバーにより1869年に建設された洋式ドック。当時、船の機関の修理しかできなかった日本が、この完成により蒸気動力で船を曳き揚げ、船底を修理することが可能となった。

**萩**

**1 萩反射炉** (鉄)  
海防要地を統治した萩藩が、独力で建造に挑み、1856年に試験炉として建設された。西洋技術への試行錯誤の取り組みを物語っている。

**恵美須**

**2 恵美須ヶ鼻造船所跡** (せんきょ)  
1850年代後半に2隻の洋式帆船を建造した萩藩の造船所。

**大板山**

**3 大板山たたら製鉄遺跡** (せんきょ・せんきょ)  
恵美須ヶ鼻造船所で組み立てられた洋式帆船に船釘などの鉄素材を生産・供給した。

**萩城下町**

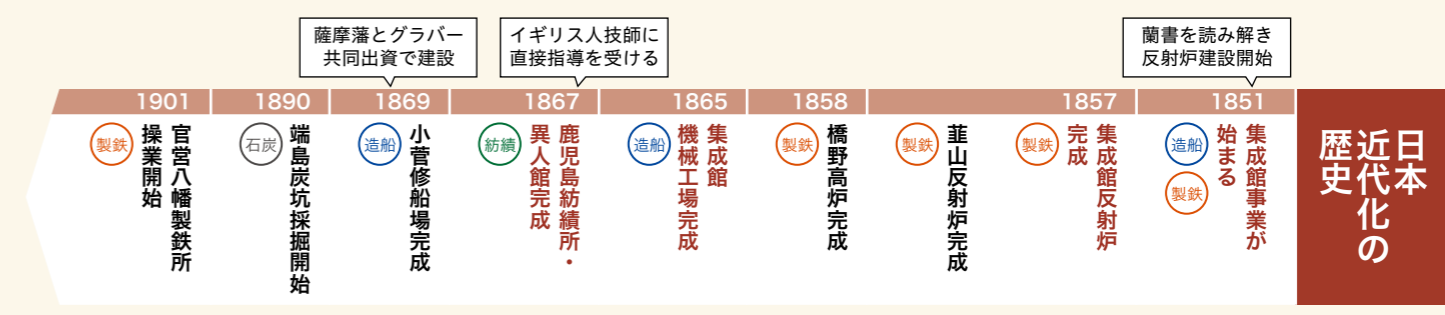
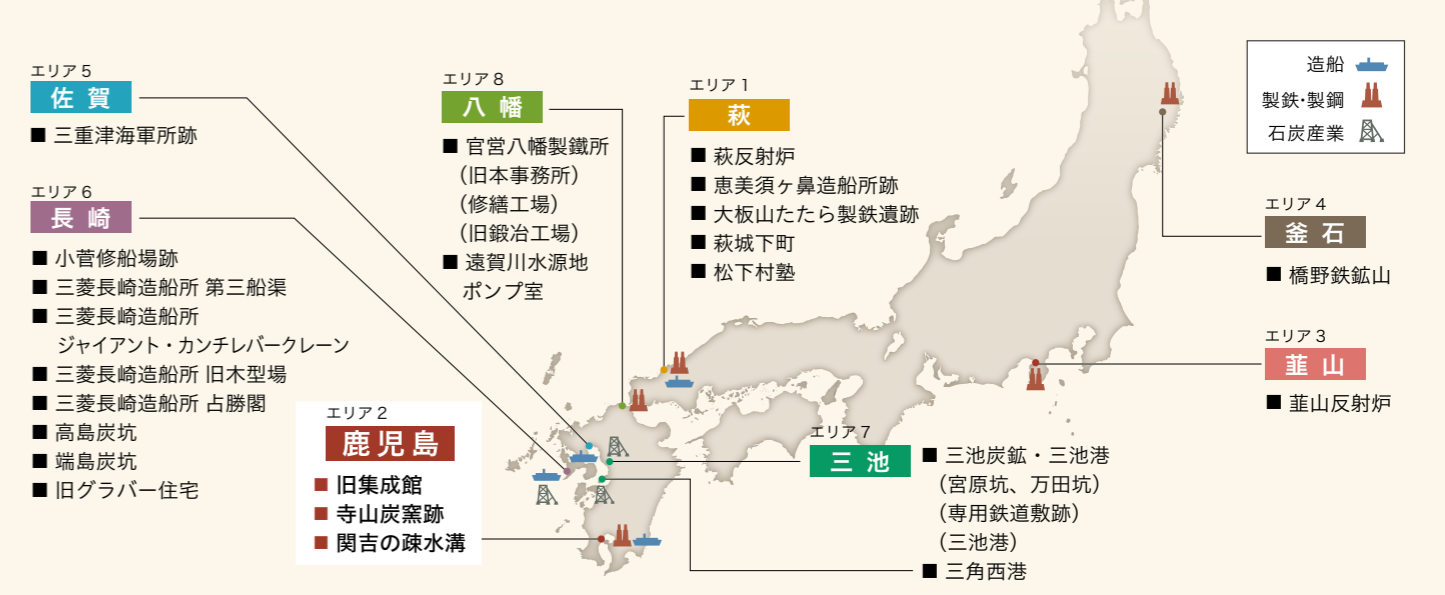
**4 萩城下町** (全般)  
産業革命の担い手を育成した萩(長州)藩が、幕末の産業化を目指した時代背景を象徴する町。

**松下村塾**

**5 松下村塾** (全般)  
幕末に萩(長州)藩の兵学者、吉田松陰が主宰した私塾。松陰の教えは、海防の必要性や、産業国家の礎を担う志を育み、やがて産業化や明治維新を牽引した多くの人物を輩出した。

**明治日本の産業革命遺産 8県11市23の構成資産**

明治日本の産業革命遺産は8県11市に及ぶ全23の構成資産からなり、「幕末から明治期のわずかに50年余という短い期間に成し遂げられた、重工業分野における日本の急速な産業化」のプロセスが世界遺産として評価されました。



**近代化の歴史**